

1月のメモ

5月7日 児童手当認定請求

6日 消防出初式

10日 教育委員会

12日 青年学級一年

14日 青年学級二年

18日 森林組合役員会

20日 鹿行戸籍合同互審会

21日 町議会 民生協議会

24日 青年学級二年

25日 米生産調整推進協議会

26日 青年学級一年

28日 選挙管理委員会

31日 青年学級二年

町民税第四期徴収

広報 あまう

発行所 麻生町1561-9
麻生町役場
印刷所 電話0811(代) 小沼幸蔵 麻生印刷

1月15日
No. 205

〈人口〉

男	8,901人
女	9,126人
計	18,027人
世帯数	3,874戸



▲もちつきはたのしい、ペッタンコ、ペッタンコの音が聞こえてくると、自然と正月の気分になってくる。



女の子は、おそなえもちをつくる。おもうようにまるいかたちができる。

正月を 楽しんで なみ

麻生町青年団（団長永作新一さん）では、養護施設にいる人に楽しい正月を迎えていただこうと「もち米ひとにぎり運動」を実施していましたが、12月29日、友部町にある養護施設、県立愛育園で、あつまったもち米約2斗のもちつきをしました。

県立愛育園は、現在2歳から15歳までの保護者のいない児童など、環境上保護を要する児童が50人います。

この日は、朝早くから12人の青年団員と町から厚生課長と職員がかけつけ、もっていったうすときねでもちつきをしました。青年団員は農家の人も、手でもちをつくのは初めての人が多く、機械では味わえないペッタンコ、ペッタンコの音に、正月気分を園児と共に楽しみ、このあとできたての「あんこもち」「どうにもち」に舌づつみをうちました。

ひとにぎりのよせられた善意によって明るく楽しい正月を迎えていることでしょう。

今春には中学を終えて進学する人、就職する人がいるようです。元気に巣立つようお祈りいたします。



▲あんこもちおいしいな……にこやかに楽しく食べているが、カメラを向けるとツイおすまします。



麻生小学校へ、麻生の畑照美さんはスリッパ十足。同平野正義さんは世界動物百科一組。富田老人会はぞうきん百五十枚を贈りました。

富田の荒井五左門さんは麻生幼稚園の遠足におやつを贈りました。

善意銀行へ次のかたが預託されました。

根小屋老人クラブ長生会は困っている人へ二千六百円。小牧の大川心衛さんは大和第一小学校へ運動ズボン五本、ショートパンツ十枚。

橋門の小牧欣吾さんは橋門老人クラブへ五千円。

新原老人クラブ長生会へ、新原の内山金次郎さんは一万円。同内山くみさんは五千円。

籠田の斉藤勉さんは困っている人へ千四百円。

矢幡老人クラブ長寿会は困っている人へ二千一百円。

富田東地区簡保会は、富田第一、第二、第三明星会へ三千円。日本習字教育連盟富田支部へ千円。

麻生警察署の桜井一夫さんは困っている人へ三千四百七十六円。

丸和常陽繊維工業KKの柳町正夫さんは困っている人へ衣類十五点と千円。

富田老人クラブ明星会は、麻生小学校へぞうきん百枚、困っている人へヒモ百本。

〔善〕
〔意〕

あけまして おめでとうございます



町長
小沼幸蔵

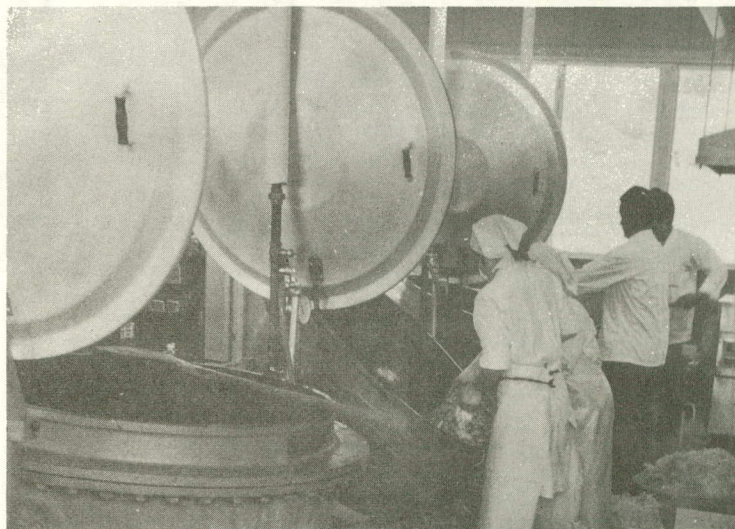
町民の皆さんあけましておめでとございます。

新しい年を迎えて、まずもって皆様のご健康とお仕事の発展とご一家のご繁栄をお祈りいたします。

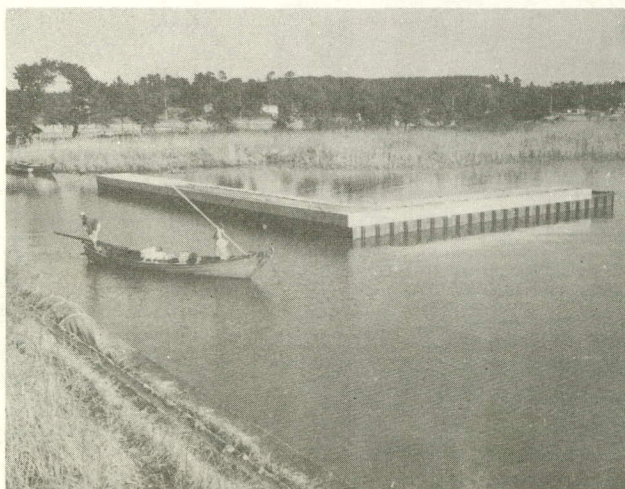
昨年は町政に対し一方ならぬ協力を賜りまして、まことにありがとうございました。心から厚くお礼を申し上げます。おかげをもちまして、町づくりの基礎となる道路の改良と舗装、下水の整備、小高漁港整備(第一期)、町営住宅建設、天王崎開発事業、また、環境衛生の面から多年の懸案となっておりましたゴミ

の処理につきましても、玉造町と北浦村、麻生町の三町村で清掃組合を設立して、これが施設の建設に着手、年度末には完成の予定です。ほかに外郭事業である麻生高等学校の永久校舎建設事業の第二期整地工事は、自衛隊により完成し校舎建築も第一期工事が本年三月中旬完工のはこびとなりすべてが順調に推移してまいりました。

また、これとあわせて、町民生活に直結したきめの細かい施策、すなわち住みよい環境づくりや教育施設の充実さらには社会福祉の充実を念願して懸命に取り組んでおりますが引き続き米の生産調整や農産物価格の不安定、さらにはドルショックによって経済状態は混乱し、すべての産業に非常な悪影響をもたらしていることをさげられない状況にあります。



▲46年4月から、麻生町の小・中学校、幼稚園児全員にここから給食が届けられています。給食センターも運営を始めて約1年、栄養のある、おいしいものを……とがんばっています。



五町田漁港の次は小高漁港、二か年計画で工事を進めています。第一期工事は完成しました。



町議会議長
関 武夫

昭和四十七年の新春を迎え、議会を代表いたしまして、謹んで新年のごあいさつを申し上げます。

皆さん、明ましてお目出度うございます。年頭にあたりまづもって町民各位にとりまして、よりよい幸せな年でありましようお祈り申し上げます。

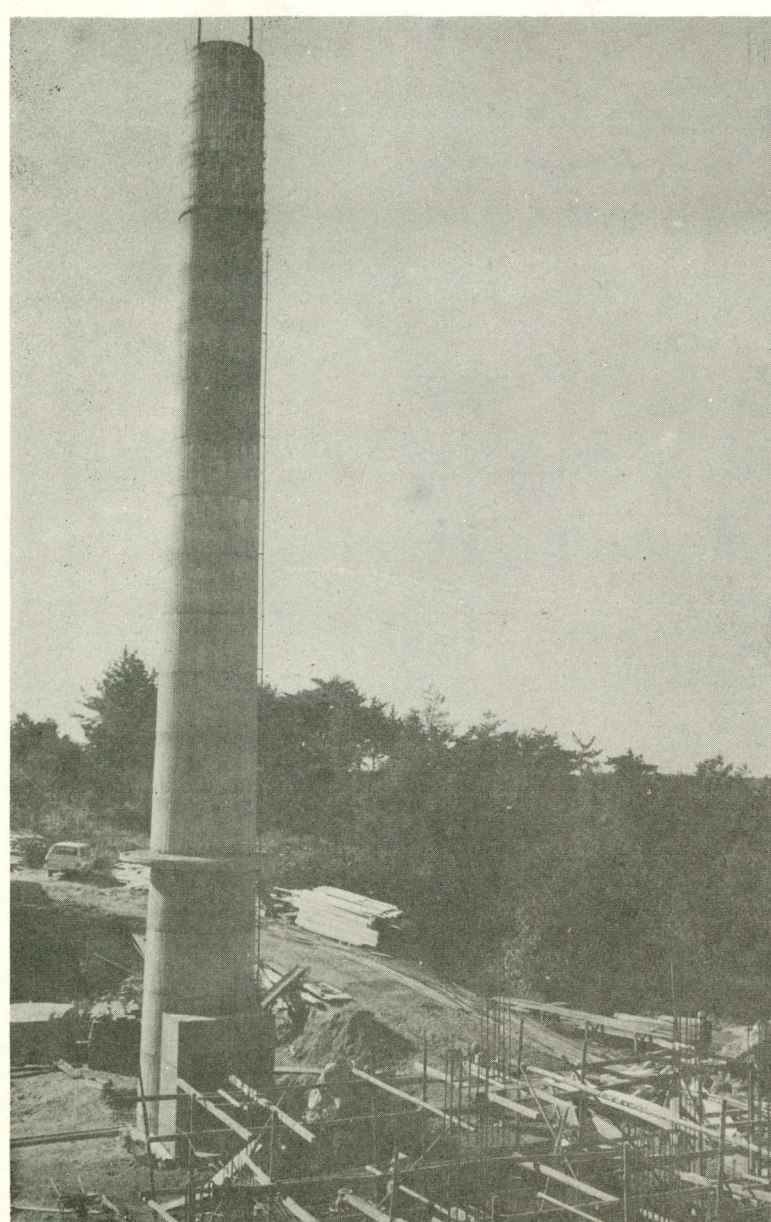
わが麻生町の行政も皆さんのご協力によりつ、がたく進展しておりますことはまことに喜びに甚えません。年ごとに変わらうしつつ、ある内外の情勢のなかで、たゞいま国では地方自治体に対し広域市町村圏計画を提唱しており、当地

方においても、新都市開発に伴う諸問題に対処するため、隣接町村で振興整備計画の調整などが真剣に討議されております。道路網、環境保全、流通機構の整備強化のための卸売市場の開設などの面ではすでに共同で処理すべき現状であります。すでに、麻生、玉造、北浦の三ヶ町村でゴミの協同処理場を新原に建設中

で今春四月に操業開始の運びとなっております。こうした諸施策も、公害を防ぎながらしかもこの豊かな自然を守りつ、町の進展をはかるために議会としては最大の努力を傾注しているつもりであります。

何と申ししましても地方自治体は住民ひとりひとりが町政に関心を寄せられて、皆さんのあた、かい郷土愛によるご協力がなければ、住みよい美しい町にはなっていないとおもいます。何卒皆さんの絶大なるご理解とご協力をお願い申し上げます。

この美しい郷土に、住民の福祉をもちたすように努力するのが私も議会人の職責でありまして、本年はなお一その躍進の年として私どもは今後もさらに研鑽を積み、町政全般にわたり、内容充実に最大の努力をはらう所存であります。なお今年の二月には本議会議員の選挙が行われま



麻生町、玉造町、北浦村の三町村で建設しているゴミ処理場は、今年度中に完成四月一日から一日二十トンのゴミを処理します。

公民館建設促進を決議

初の婦人・青年議会

麻生町では初めての模範町議会が、婦人と青年にわかれ十二月十七日、二十日とそれぞれに行なわれました。婦人議会、青年議会は、婦人と青年が、町の現状と将来の方向、地方自治の本質などについて理解と関心を深めることにより、自身の向上と健全な団体活動をはかり、よりよい町の発展につくそうというものです。

婦人、青年ともに選出された議員は、本議会議員の定数と同じ二十四人、各団体から選出された議員と事務局員は三回の学習会を行ない、町長はじめ役場の各課長から町の行政について勉強するとともに総務、教育厚生、経済、建設の四委員会に別れて、町への質問事項などをとりまとめました。

十七日の婦人議会（議長箕輪智恵）、二十日の青年議会（議長松兼幸蔵）ともに、学習会で熱心に検討された質問事項だけに、町当局の答弁も本議会におとらぬ熱のはいりようでした。婦人、青年議会とも質問の終わったあとに、全員一致で麻生町中央公民館建設促進に関する決議をしました。

この模範議会で委員会別に質問された事項の要点は次のとおりです。模範議会に直接関係のなかった人も、改めてこれらの問題について考えたり家族や、グループの中で話しあってみてください。

婦人議会

（総務委員会）
火災はいつどこで発生するかわからない危険な事件で、最も身近な問題です。出火せざるによる消防団員の減少によって、主婦は日夜不安なものを感ずる。一般町民の協力体制など、安心して生活できる消防体制をとっていただきたい。

地域住民が町の執行部と直接接しあう町政懇談会などを行ない、地域住民の真の声をきく。登下校の安全をはかるため、児童生徒の通学については自動車などが泥だらけで歩行者を遮断してしまつた状態です。登下校の安全をはかるため、児童生徒の通学については自動車などが泥だらけで歩行者を遮断してしまつた状態です。

あそうの農業

(16) ごぼう



ごぼうは、麻生町でも古くから栽培されてきましたが、掘り取りに大きな労力がかかることから自家用程度の作付けにすぎませんでした。二、三年前に「ごぼうの掘り取り機械（ポットレンジャー）」の出現によって掘り取り労力の省力化ができるようになったことから、農協が中心となって普及、作付けは急激に伸びて、現在の麻生町における総作付け面積は約三十ヘクタールに達しています。

出荷を前にごぼうの選別に忙しい四鹿の金田時衛さん。ごぼうは、麻生町でも古くから栽培されてきましたが、掘り取りに大きな労力がかかることから自家用程度の作付けにすぎませんでした。二、三年前に「ごぼうの掘り取り機械（ポットレンジャー）」の出現によって掘り取り労力の省力化ができるようになったことから、農協が中心となって普及、作付けは急激に伸びて、現在の麻生町における総作付け面積は約三十ヘクタールに達しています。

め早急に、通学路の建設はできないものでしょうか。

（経済委員会）

経済の高度成長の中で農業はかつてない転換期に直面しきびしさを増しています。今までの米位存の農業をぬき出し、その拡大をはかり所得の向上をはからなければなりません。協業生産で出荷の調整流通機構の合理化がはかれることが思われ、その育苗センターの設置をのぞみます。

生活水準の向上に伴う公害問題も多くなってきました。河川の汚染も畜産のふん尿が一番問題にされて、畜産農家はなやみの種を思っています。診療所の科目増設による医師の増員によって、当直制をとることも可能と思えます。小学校の理科は、上級学校への基礎的なものになるばかりでなく、今日の文明社会では常識を養う学習です。現在より多くの理科設備を充実しめよう、一日も早く担当教師と連絡協議されるようお願いいたします。

（建設委員会）
費用も安く、安心して分娩できる母子センターを是非設置してください。

（青年議会）
二月に行なわれる町議選は、ごぼうの栽培は、四月下旬に種をまいてからはさほど手間がかからず、掘り取りは、ポットレンジャーが十アールあたり二日くらいで済みます。出荷は関係方面がほとんどで、十アールあたりの純益は約六万円と、低いうらみはありますが、掘り取りによる深耕の利点を、他の作物と組み合わせることができるため、今後作付けに大きな伸びはないにしても、そま作りに必要な輪作体制の形成上、重要な作物として定着することでしょう。

「環境保全町民会議」発足

町民総ぐるみの運動を

霞ヶ浦の水質汚染については、新聞紙上で数多く取りあげられ、県でもこの対策に力を入れています。水質汚染の一番の原因は、工場排水、二番、生活排水、三番畜産、排水となっており、二番目の原因となっている生活排水の問題などを考えると、これは町や県の対策ばかりでなく、町民や県民総ぐるみの運動が必要となってきました。町では、この運動を推進するために、十一月二十七日、町内七団体の長を発起人として「環境保全町民会議」の設立を決め、町内三十四の団体の代表者を会員として選出し、十二月十三日、役場第二会議室で設立総会が行なわれました。

設立総会では、「環境保全町民会議」設立までの経過報告のあと、規約の審議、役員選出、四十六年度予算と事業計画が決められました。町民会議の目的は、郷土の美しい自然を守り住みよい麻生町を築きあげるため、町民が一体となって環境の保全運動を推進することにより、快適な生活環境の確保することにあります。このための事業として、(1)環境の保全に対する実践運動をすること、(2)環境の保全に関する意識の高揚、事務局長栗又厚生課長。

現在の農業は、過渡期にきてしまったと言つても過言ではないと思います。町に對しては、(一)農業の発展を望みます。(二)農業用給排水の整備。(三)耕地の整理。(四)資金借り入れの簡便化。(五)農業後継者育成の指導機関の充実。農業をとりまく諸情勢がますますきびしくなつて行くなかで、麻生町農畜産物生産振興五か年計画（町報百九十九号に一部掲載）の実施にあたって町はどのような実施体制をとっていますでしょうか。具体的な説明をお願いします。

（建設委員会）
町は町道舗装に重点をおき今年度をもって、主要町道の舗装は完了と聞いています。町予算の約四分の一を費やしてこの事業をしていると言われているが、その事業内容と建設予算の支出面を説明してください。

（教育厚生委員会）
成人式の再度復活の要求が青年層からあがっています。従来の成人式ではなく、山にキャンプをするとか、運動会あるいは夏に式典を開き、テニスをかこんで青少年の悩みを語りあうとか、体質を改善して、成人者が生涯記憶しているような思い出深い成人式をお願いします。

（経済委員会）
我々町民の参政権としては、身近なことであり、一番大切な一票を投じる選挙です。我々町民が候補者を選出するには、候補者一人、一人の町政に対する考えなどを文書にして、直接町民に知らせ、対話のある選挙にし、良き議員を選出する選挙にすることが「町議会議員選挙における公報の発行」について町当局の所見をお願いします。

（環境保全町民会議）
町民会議の目的は、郷土の美しい自然を守り住みよい麻生町を築きあげるため、町民が一体となって環境の保全運動を推進することにより、快適な生活環境の確保することにあります。このための事業として、(1)環境の保全に対する実践運動をすること、(2)環境の保全に関する意識の高揚、事務局長栗又厚生課長。

（環境保全町民会議）
町民会議の目的は、郷土の美しい自然を守り住みよい麻生町を築きあげるため、町民が一体となって環境の保全運動を推進することにより、快適な生活環境の確保することにあります。このための事業として、(1)環境の保全に対する実践運動をすること、(2)環境の保全に関する意識の高揚、事務局長栗又厚生課長。

成人者の感想文入選者
町と教育委員会では、昭和四十七年度の成人者を祝福する成人記念誌の原稿を募集していましたが、次のとおり入選者が決まりました。

また、選挙管理委員会でも募集した新有権者の感想文についても次のとおり入選が決まりました。

（成人者感想文の部）
田山 勇（富田）
宮内 勝子（小牧）
荒原えみ子（岡）
箕輪 洋子（南）
高栖 悦子（島並）
高木 君子（行方）
小峰やす子（宇崎）
前川 さわ（緒沢）
（新有権者の部）
齊藤 俊雄（麻生）
高木 君子（行方）

二月一日農業基本調査
本県農業の基本的事項を明らかにするとともに農業経営の改善、農業行政施策の基礎資料を、作成するため、毎年二月一日現在で農業基本調査が実施されます。調査の対象となる農家は①経営耕地面積が十アール以上で農業を行なう世帯、②十アール未満でも、調査期日前一年間における農産物の総販売額が五万円以上である世帯、③学校、試験場、協同組合、協業事業体及び会社等で、④のいずれかに該当する農業事業体各地区的調査員が、調査票を配布しますので、調査員の説明を聞いて記入してください。

調査の内容は、統計以外の目的に使用することは禁止されています。農家の皆さんに迷惑をかけるようなことはありませんので、正しく記入されますようお願いいたします。

